

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
66

振興協議会だより

〔発行日〕令和6年4月30日
〔発行〕苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕025-765-1600



苗場山麓ジオパーク事務局長退任のごあいさつ

津南町に着任し、文化財の保全と活用に進捗するなかで地域資源であるジオ+エコ+カルチャーの保全と活用を進める日本ジオパークネットワークの存在を知り、自らが構想を立て、レポート化し、公的に準備が認められた後、認定と再審査を2回経験しました。新潟県津南町と長野県栄村が手と手を携えて、「身の丈」を合言葉に事務局活動を継続してきました。特に「ジオパークだより」の刊行と学童への「ジオパーク学習」の展開に活動の重きを置いて進めてきました。振り返れば13年の月日が経過しました。

その折々で学術指導委員会の先生方からご指導をいただき、振興協議会の皆様から暖かいご尽力をいただくことで2回の再審査をグリーンカードで乗り越えてきました。第2回再審査後には、令和8年度の再審査に向けて『基本計画』の下書きを敲き台にした協議に参加し、10周年記念講演会の準備を始めていました。その矢先に事務局長を令和5年度で卒業する旨を聞き、肩にのし掛かっていた重い責任が一気に消える感じに驚きました。

常日頃、独立独歩して歩むガイド部会の活動に触れるたびに「ガイドあつてのジオパーク」を再認識し、広報部会の高校生を巻き込んだ「ジオパーク写真コンテスト」に絡む多様な活動にガイド部会との協働を見てきました。さらには商品開発部会の皆様の研究への熱心さと地域学童とのコラボ事業には驚かされました。また、資源探査部会の未来を見据えた散策道の整備と維持管理システムの観光部局との具体的な協業に触れ、うれしく思う機会が増えた昨今でした。すべての関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。

さて、令和6年度からは埋蔵文化財センター準備室長として、令和7年9月のオープン、その運用における課題に向けての対処などを職務として向き合うこととなります。また、埋蔵文化財センターの一部は、ジオパークの中核施設としたビジターセンター的機能を持ち合わせます。すなわち、ジオパーク活動と間接的にかかわる部署に着任したということです。よって、立場は違いますが苗場山麓の地質的環境と生態環境を背景に営まれてきた遺跡を対象とし、その保全と活用に絡む基盤づくりに励む所存です。今後も皆様から多くのことを学び、ご指導をいただけますようお願い申し上げます。

【佐藤 雅一・現津南町埋蔵文化財センター準備室長】



苗場山麓ジオパーク事務局 新職員のご紹介

令和6年度となり、苗場山麓ジオパーク振興協議会事務局においても人事異動がありました。

認定前のジオパーク準備室長として1年間、認定後には、ジオパーク推進室長として9年間、苗場山麓ジオパークを牽引してこられた佐藤雅一室長が異動となりました。また、栄村教育委員会生涯学習係の越智勇気係長が退職されることとなりました。お二人には、これからもジオパークの拠点施設整備やジオガイドとして、ご指導とご協力をいただくこととなっています。

そして、新たに、ジオパーク推進室に五十嵐誠室長、栄村教育委員会生涯学習係の阿部佑哉係長が赴任されました。

今年度は、苗場山麓ジオパーク認定10周年の節目の年です。10周年関連事業の実施や、「基本計画」の策定などに加え、新潟圏域ガイド意見交換会、子ども学習交流会など苗場山麓ジオパークエリア内外でこれまでの活動をさらに活発に継続していきます。

また、令和8年度に実施される3回目の再審査を見据え、ジオガイドの皆さん、関係各部署、日本ジオパークネットワークと情報共有や連携を図り、活動と学習の場を広げたいと思います。



五十嵐 誠
ジオパーク推進室長



阿部 佑哉
栄村教育委員会 生涯学習係長



第9回苗場山麓ジオパークフォトコンテスト入賞作品決定

9回目となる苗場山麓ジオパークフォトコンテストの審査会が1月30日（火）、栄村役場を会場に行われました。8名の審査員が厳正に審査し、288点の全作品の中から最優秀賞、各部門賞、各スポンサー賞を決定しました。入賞作品の結果は苗場山麓ジオパークのホームページ（<https://naeba-geo.org>）でご覧いただけます。

次回もたくさんのご応募を心よりお待ちしております。



フォトコンテスト
結果発表ページ



最優秀賞「水田の光景」 茂野 孝志



学生部門「開放感」 高橋 堇



令和5年度 活動報告会(全11回)を振り返って

令和4年度、苗場山麓ジオパークは2回目の再審査を迎え、見事、再認定となりました。次の再審査に向けて第3期として4年間の活動を進めていくことになります。そこで、これまでの8年間の活動を、改めて地域住民の方々に知ってもらうために、集落の公民館等をお借りして活動報告会を行いました。5月に船山、中深見、秋成、見玉、結東、大赤沢、11月に米原、谷内、上郷クローブ座、だんだん、3月に栄村かたくりホールを巡り、延べ11回、100名のご参加をいただきました。

各回ともに参加者一人一人からご意見をお聞きしました。その中で、苗場山麓ジオパーク認定以前の自然保護運動やインバウンド誘致のお話や、これまで見聞きのない地域の見どころを教えられることもあり、改めて、地域住民の方々と意見を交わすことの大切さを実感しました。



まちなかオープンスペース「だんだん」にて



大地のたからもの～苗場山麓ジオパーク認定商品ご紹介～



【越ノ国ニ光カガク米 風と雪と水と土と 魚沼津南産コシヒカリ】

津南観光物産館 ※こちらでお求めいただけます
〒949-8202 津南町大字芦ヶ崎乙203番地
☎025-765-5008 営業時間9:00～17:30
定休日：水曜日 オンライン販売：あり



ジオストーリー

苗場山麓の溶岩石から湧き出る豊富な湧水はジオの田を山から順に潤してくれます。田植えから一斉に鳴き出すカエルの声、夏の夕刻の涼しさ、収穫前の黄金色に輝く大地。四季美しい自然の中で香り高い最高級の魚沼コシヒカリが収穫できます。炊き立てを一口ほおぼり、大地の恵みをどうぞお楽しみください。

※苗場山麓ジオパーク振興協議会・商品開発部会事務局では、新規商品の申請について、随時ご相談を受け付けております。

【お問い合わせ】津南町役場観光地域づくり課 電話025-765-5454

認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

樋口 明さん



今、残すべき地域の「たから」(ガイドNo.64 樋口 明さん)

「ふるさとの訛りなつかし停車場の人ごみの中にそれを聴きにゆく」これは石川啄木『一握の砂』の一節です。苗場山麓ジオパークと何の関連があるか？ということになりますが、ジオ・エコ・カルチャーの中のカルチャー（文化）にあてはまると考え、今残さないと永遠に消えてしまう「ふるさとの訛」すなわち『方言』であると思います。長い時間をかけ地域の人々が生活の中で培って使われてきた言葉は形として見えないものであるがゆえになかなか残すことは難しく、かつては会話の中に何ら違和感なく地域共通の言葉として当たり前に使われてきましたが、近代化とともにテレビ、ラジオ等の普及、教育の上層化がどんどん進み現代社会において若い人が『方言』を使って会話をするような場面は全くなくなってしまいました。

まだ私が子供の頃は「このかがっぽい天気の良いどきにじろにあたってばっかいねでかどでとんであらって来い！（こんな眩いほど天気の良い時に囲炉裏で温まって居ないで屋外で走り回って来なさい!）」と、としより（年寄り）にさべられた（叱られた）こともありましたが、今ではお年寄りですらこんな言葉を使う方はいません。さらに私達の地域では発音も「い」⇔「え」、「う」⇔「お」、「う」⇔「ん」、「ひ」⇔「ふ」、「ゆ」⇔「よ」等、独特の発声がありました。現代の人は発音もきれいで、きちんとした共通語を使います。私は未だに訛っている（自分ではわかりませんが・・・）とよく言われ、おしゃべりするのにもいつもコンプレックスを感じています（私は貴重な存在なのかも知れません“笑”）。

この地域で生活する私達は消えゆく『方言』の大切さをあまり感じるようなことはありませんが、郷里を離れ生活されている方にとっては折りに触れ「ふるさとの訛」は懐かしく大切に感じているのではないのでしょうか。苗場山麓ジオパークの活動の中ではあまり表面に出づら文化的部分ですが、長く育まれてきた地域の特性としての『方言』を大切な『たから』として後世に残していかなければならないカルチャーのひとつと考えます。



ニュー・グリーンピア津南で紹介



ニュー・グリーンピア津南
公式ホームページ



ニュー・グリーンピア津南のジオサイト紹介パネル

何気なく使っていませんか？

- ・隣のかかとさつつあさべつちよする。
- ・ええんのぶりにほおきんとうが出始めた。
- ・げえん雪が降っておおごったのし。
- ・隣のとつあは近ごろあめはじめた。
- ・かてぜをまんまにかけて食う。
- ・腐ったでこはこやまへぶちゃって来い。
- ・しいなぶけてぞうよが無くなった。

お知らせ

5月11日(土) 13:30～15:30 ガイドスキルアップ研修:危機管理・救急法(AED)ほか 場所:津南町総合センター
5月18日(土) 9:00～12:00 LNTワークショップ(一般・高校生以上) 場所:さかえ倶楽部スキー場



突撃しよう！となりのジオ便利～阿蘇ジオパークからこんにちは～（阿蘇ジオパーク 松本 華捺）

阿蘇ユネスコ世界ジオパークは、約27万年前から約9万年前に起きた計4回の巨大噴火によって作られたカルデラがあり、その大きさは東西約18km・南北約25km・面積約350平方キロメートルと世界最大級の規模を誇ります。カルデラの中央部には中央火口丘群があり、現在も活動している中岳をはじめとする阿蘇五岳（高岳、根子岳、杵島岳、烏帽子岳）が含まれます。この巨大カルデラの中には約5万人もの人々が生活しています。

阿蘇では、農業や林業から生まれた草原景観や森林の文化が育まれてきました。例えば、1000年以上の歴史をもつ阿蘇の草原の野焼きは、毎年3月頃に行われており、生物多様性や九州の水源を育む役割があります。森林については、南郷檜や「小国杉」があります。小国杉は主に小国町と南小国町で育てられており、江戸時代から続く250年の歴史があります。その見た目の美しさと耐久性から、2023年には震災復興のシンボルとしてリニューアルした阿蘇熊本空港に小国杉が採用されています。

阿蘇での生活は、「災害」も忘れることはできません。2016年に起きた熊本地震は、4月16日で8年目を迎えました。

去年2023年9月にオープンした南阿蘇村の「震災ミュージアム KIOKU」は、熊本地震の記憶や経験、得られた教訓を後世に伝える回廊型のフィールドミュージアムとなっており、熊本地震の被災の様子やその発生メカニズム、そして防災について学ぶことができます。

その様な背景を持つ阿蘇には地球の資源がたくさんあり、日本名水百選に選ばれた南阿蘇村の白川水源や産山村の池山水源があります。また、西原村の白糸の滝など、地域で暮らす人々に大きな恵みをもたらしてきた豊富な湧水地を身近に感じることができます。その他にも、火山の驚異の景観が感じられる山都町の蘇陽峡は、11月の紅葉シーズンだけでなく、夏は深緑が美しく絶景ですし、高森町のらくだ山は、ぼこぼこ出ている岩が「らくだのコブ」のように見えることから名付けられていますが、ここではマグマが板状に冷え固まった岩脈を近くで観察することができます。

中岳火口の周辺には、様々な火山噴出物・火山地形・特有の植生などを見ることができます。阿蘇市の中岳火口は、毎年世界中から多くの観光客が来ています。

まだまだ紹介しきれない、見どころがたくさん詰まった阿蘇ジオパークへ皆様是非遊びに来てください。



カルデラ



白川水源



中岳火口



令和6年度 苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業 採択者決定

2月26日（月）、午前10時半から農と縄文の体験実習館なじもんにおいて、令和5年度苗場山麓ジオパーク学術指導委員会が開催されました。これは苗場山麓ジオパークの潜在的資源の調査研究、保全活動など学術的な立場の専門家から指導・助言をいただくことを目的とし、この地域を対象に調査研究を希望する申請者に対して、学術指導委員6名による評価結果をもとに次年度の助成対象者の審査を行う役割を担っています。

令和6年度の採択者が下記のように決定いたしました。調査期間を経て調査内容の報告をまとめたものが「苗場山麓ジオパーク研究集録第7号」に掲載される予定です。現在、第1号から第6号まで発刊しております。1冊1,000円（税込）でお求めいただけます。

【販売に関するお問い合わせ】農と縄文の体験実習館なじもん 電話 025-765-5511

氏 名	所 属	研究の名称
涌井 泰二	苗場山麓の自然を考える会	城坂城トレッキングコースをめぐる自然と暮らし
名倉 一希	海城中学高等学校	域外在住中学生による苗場山麓ジオパークの認知とジオパーク学習の可能性
井上 卓哉	静岡県富士山世界遺産センター	秋山郷におけるトチノミ利用と栃林に関する民俗学的研究
河野 摩耶	京都芸術大学芸術学部	苗場山麓の縄文集落遺跡における赤色顔料原材料の産地推定と交易史
山口 弘幸	鎮西学院大学	苗場山麓ジオパークにおけるユニバーサルデザイン化の推進に向けた基盤強化と人材育成に関する調査研究
阿部 稜平	千葉大学大学院融合理工学府	苗場山麓の積雪に現れる雪氷生物の活動期間とその要因に関する研究